

# 雲石移住18年のベテラン？移住者（フリーカメラマン）がつづる 移り住んだ先の日常

## ※ 寄合酒に呼ばれて

※寄合酒=雲石のとーちゃんたちの飲み会。集落内の親睦を深める大事な会合

雲石のとーちゃんたちの飲み会には「返杯システム」というものがある。これは誰かに酒を勧めるときにはかならず空のぐい呑を持って行って、相手に渡してなみなみに酒を注ぎ（その際、酒杯を押さえて込んで注ぐのがポイント）、注がれた方は、それを飲み終えたら相手に返すものなのだが、全部飲んでからしか返せないのゆっくり飲んでいけると、あっという間にいろんな人から酒杯が届けられて、自分の前は酒杯だらけとなる。とくに移住者は物珍しいうからというもこともあって、もう次から次へと「まま、いっぺえ、やるべ」となる。当然撃沈である。



雲石のばーちゃんは働きもので草取りが大好き。自分の庭を取りきつちゃうと、暇を持って余したのか他人の庭にまできてむしり取る性質がある。とくに移住者の庭はほったらかしが多く、もう見てられなくなっちゃうのか、留守の間を見計らってやってきて草取りしてくれるのだ。こちらとしては大歓迎なのだが、勝手にやっていることなので、ばーちゃんとしてはどうにもバツが悪いのか、見つかりそうになると、すたこらと逃げるのである。

※草取り=春から秋にかけて、地元のお母さんたちが精を出して行う仕事



逃げていくおばーちゃん  
背後の曲がったおばあちゃんがカマを持ったまま、すばっと水路を飛んで畑を走っていく姿には、「おおー」と、ただただ感動したのであった。恐るべし、雲石のおばーちゃんである。

## 古い公民館は 燃やしてしまえ！

※公民館=会合、寄合、さまざまな行事の後の飲み会などが行われる、とっても大切な場所

地区の公民館が老朽化したので、新たに建設しようという話が持ち上がった。でも、限りある予算。そこで、下った命令が、「節約のために解体はオラたちでやるべ。んだからさ、今度の日曜日、みんなボールとか斧とか、重機とか持ってこい」というものだった。そしてはじまった手作業による解体。ドカドカんとみんなで建物を壊す。それだけで十分ワイルドなのだが、壊した公民館の廃材を捨てるとまたお金がかかるし、金もないとかいう話が浮上りしてきて、で、導き出されたのが「節約のために、もう燃やしてしまえっ！」っていう鋭すぎる妙案。ゴウゴウと赤い炎で焼き尽くされていく公民館。テレビのブラウン管がドツカンと爆発音を上げたりして、はつきり言うて「火事だ!!」っていう光景だった。もう時効ですけどって話。



雲石に移住したからには、やっぱり山菜採りとか一度はしてみたいもの。その願いを申し入れ、雲石で絶賛活躍中のマタギの弟子入りをすることに成功した。ところが、マタギのじいさん、結構スバルタな人物。雨でもなんでも激しく山歩きに連れていくのはしょうがないとしても、人生の価値観の最優先順位が、マイタケやタケノコなのにはちょっと困った。その時期がやってくると、仕事があるといっても「槍が降っても採りにいかねばなんねーんだ。マイタケ、おがりすぎたら（大きくなりすぎたら）おめえどーしてくれるべ」と鷹の目でジロツと睨むのであった。そんな人だから、つい仕事を優先した僕は破門されてしまった。以来、まったく口も聞いてもらえず。たかが山菜されど山菜。雲石は、されど山菜の人が圧倒的に多い土地柄である。

※山菜採り=春になると行われる大切なお仕事。古くからの町民は自分のエリアを持っている

## マタギの弟子を 破門される!?

※簡易水洗=少量の水で汚物を流す画期的なシステム。汚物は従来通り汲み取りしてもらう。

※集落への郷土愛=雫石の集落は郷土愛に支えられ、草刈りしたり、飲んだり、野球したりといろんな活動が目白押し。

## 大人の運動会に参加

5月の雫石は運動会シーズン。町内のいくつかの小学校では、午前中に子供の運動会があり、午後からは大人の地区対抗運動会が催される。で、どっちが盛り上がるかっていうと、圧倒的に大人の運動会。突如、集落への郷土愛に燃えるのか、もうやる気まんまんで飛んだり跳ねたりする雫石の老若男女の姿を楽しめる。でも、さすがに背中が曲がったおじいちゃんの全力疾走には、胸踊るよりハラハラドキドキの切迫した感情が勝るのが常である。

そして、何より盛り上がるのが小学校低学年から70代までタスキをつなぐ地区対抗リレー。ただ、少子高齢化が激しい雫石だけに、人足から突然、20代のところに30代が登場したりと波乱のシーンも多く、勝敗の行方も二転三転して、妙に盛り上がる。運動会に毎年参加するようになったら立派な雫石人である。



森に囲まれた雫石。愛犬との散歩は自由が満喫できるひとときだ。とくにスノーシューを履いて、森の中を自在に歩き回る冬の散歩は都会暮らしでは味わえない楽しさだ。

そんな散歩では、狐や熊などの野生動物と出会うことも多いから、犬も野性味を取り戻すのだろう。あるとき、雪の山で愛犬が森に飛び込んでいったかと思うと、バタバタと騒ぐ雄の山鳥をくわえてきたという出来事があった。嬉々とした表情の愛犬に噛み付かれた山鳥。かわいそうだなと思ったが、次の瞬間には、さらにガブリといかれちゃったのか絶命してしまった。というわけで食べるしかないなど、家に持ち帰って、羽を抜いて鍋にしたのである。それを雫石の人に話すと、「自分で獲物を捕るなんて名犬中の名犬だ!!」って、愛犬の株が急上昇したのだった。

## 愛犬が

### 獲物を捕まえてきた



雫石の田園に引越してきて、突然フ

リーのカメラマンですって名乗ったところで、写真を撮るのだから以外の理解は得られず。ということで、実際にあったのが死んだおじいちゃんが撮っていた大量の菊の写真をお届けされたこと。おばあちゃんが抱えてきた箱の中は、菊コンテストらしきときの菊、菊、菊の写真の数々。これを見ている僕に、「おめえさんはきつと欲しいべ」とにっこり。「ここで、「なぜ?どーして?」って聞くのは愚問であろう。

あと、納屋かなんかで見つけためちゃくちゃ古いカメラが届けられたことも。もちろんぶつ壊れ中である。で、おじいが、「これどうにかならんかな?」って。修理してほしいでもない、もらって欲しいでもない、「どうにかならんか」ってバフッ(あいまいな)とした感じのやりとりが雫石流。

## 菊の写真や

### 壊れたカメラが届く



※菊コンテスト=菊愛好家の町民で沸く雫石。

町内にある野菊ホールで行われる町の芸術祭には、町の花である菊がたくさん並ぶ。

## トイレを

### 簡易水洗にしたら

### トイレがあふれた

…でも穴を掘って埋めた

最初に移住した先は借家だったが、そこがいわゆる「ぼっとん便所」だった。少しの間、それで我慢していたが、やっぱり、という話になって、シャワートイレ付き便座の簡易水洗にリフォームを敢行した。それで、すこぶる快適になったが、利便性は人をダメにするものである。

あるとき簡易水洗であることを忘れて、汲み取り依頼をすっかり忘れてしまったのである。すると、どうなるか。家の裏のタンクから、あふれてはいけないうものがあふれているって事件が発生した。

しかも汲み取りの人がなかなか来てくれないという負のループに陥るはめに。そういうわけで、いけないものは裏の畑に穴掘って埋めました。こういう大胆なことが、わりと簡単にできるのも雫石なのだ。